令和7年度第1回大阪府地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日 時 令和7年7月29日(火) 13時00分から14時15分
- 2 場 所 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
本部・環境と食農の技術センター 3階大会議室
- 3 出席委員 奥本委員長、岡田委員、黒田委員、谷口委員、三崎委員、亀井専門委員
中野専門委員

4 議事内容

(1) 委員長及び委員長代理の選任について

- ・奥本委員を委員長に推挙する意見が委員から出され、奥本委員が当委員会の委員長に決定された。また、奥本委員長より黒田委員が委員長代理に指名された。

(2) 令和6事業年度の業務実績に関する評価について

- ・事務局より資料2-1から3-4に基づき、令和6事業年度の業務実績評価案について説明を行い、了解を得た。

<主な意見>

- ・限られた人員体制のもと、想定件数以上の受託研究を実施することは、数値目標を達成する一方で、業務を圧迫し、負担が大きくなることが懸念される。その影響を考慮し、研究機関としてプラスになる業務運営を進められたい。
- ・事業者を見据えた取組みだけでなく、府民・消費者のニーズを意識した大阪湾の水産物の賑わいと大阪を代表するような水産物のブランド化に取り組んでほしい。
- ・農業大学校におけるWeb授業の導入は非常に高く評価できる。授業はWebと対面の両方を取り入れられていると聞くと、Web授業では、一部集中しない学生もいる。対面の機会をさらに確保するなど、さらなる効果的な授業の実施を検討されたい。
- ・気候変動に伴う水稻の高温障害に対し、府内の農家は高温耐性品種の普及を望んでいるが、これら品種の種もみが不足している。大阪の農家・農地を守るという観点からも、高温耐性品種の導入実証に向けた研究を引き続き期待している。
- ・アメリカミズアブを飼料として利用することは、未だ経費が高く、採算性の面からも当分、商業ベースに乗りにくいことは理解しているが、様々な活用策や工夫のもと、引き続き検討を進められたい。
- ・大阪府から運営費の一部となる標準運営費交付金等が交付されていることは認識しているが、研究環境の充実には優秀な人材確保にも資することから、高度な精度が要求される分析機器類の更新等、大きな費用負担に対しては、府としても、さらなる財政的支援をお願いしたい。

(3) その他

- ・特になし

以上